



読者のページ



初めての沖繩(船で)

中川区第一東部長寿会

藤田みち子

「米寿のお祝いに連れてあげよう」と息子の言葉に「ありがと」と。神戸港へ着いた時、窓がいつぱい見えた。大きなマンションと思っただがそれが船だった。これが船? 見上げても

小さな背の私には上の方まで見届けない。少し離れた所から見れば、やはり船だった。その大きさは5階建てのマンションが2棟入る大きさという。最初の寄港地は沖繩だった。

沖繩に関しては本とかテレビとかで、ある程度知識はあったように思っていたが、そんな私の知識は米粒ぐらゐのものだった。その地に入ってみたいとわからないことばかり。でも行ってみて沖繩の人の苦しみ、悲しみが痛いほどわかった。こんな良い機会に恵まれ感謝している。また、ひめゆりの学生たちといつても全く私と同年代の人たちの作文を読んだとき、女学校帰りに機銃掃射を受けたことなど、私は想像すらできなかった。今まで苦

唄おうなつかしの歌楽しみです。思いのほか歌詞って忘れていたもので、再確認しています。(港区N)

お知り合いの方が文芸コーナーに掲載されますと、お元気だと思ひ嬉しくなります。(中区S)

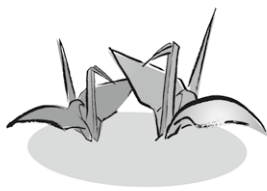
「循環備蓄」耳にしていたが実際の手順がよくわからなかった。日々の生活の中で、さんま缶ご飯を実際に食べてみる。これは時間のないときにすぐ使えるレシピだと思った。お手軽手料理、これからも期待します。(北区K)

読者の声



毎号とても楽しみに拝読しております。内容が様々でいろいろな分野があり、どれも参考になります。(緑区N)

こんな年齢まで大きな病気にもしないで生きてこれた、また生まれた場所に感謝することとはなかった。沖繩の人たちの苦勞が、私たちの幸せの助であったかと考えるようになった。



お餅の数でお年玉

西区平田永寿会

斉藤 文子

東の空に光りがさすと、新しい朝日が昇ってきます。晴着は、たった一枚きりの綿入れでした。母を失っているの、92歳の祖母の手づくりです。その当時のことを思うと今も涙がでるのです。

当時、家では畑で綿作りをしていました。祖母は、自分の一枚きりの晴着をうち返し、2、3日で私の晴着を作ってくれたのです。

その横で、お餅を早朝から作りはじめると、みんなみんな雑

テーマ投稿

1月号のテーマ

「わが家のお雑煮」



お雑煮

中区多びすクラブ

高橋 博子

私83歳。父・母は明治生まれ。父は新潟、母は京都、その二人から受け継がれたお雑煮です。なぜか、おすまし、大根、人参、ゴボウ、里芋、シイタケ、鴨門、鶏肉、仕上げに焼餅と三つ葉でした。アツ気が付いた! おせちを作った残りだったので。昔の人は考えていたのです。今、子供たちも巣立つたわが家ですが、まだ続けている自分

名古屋のお雑煮

緑区桃山寿会

土井美智子

1月1日の朝一番、まず、ぐっすり寝ている夫を無理やり起こします。なぜって言うと、わが家では、1月1日の朝だけは一家の主が一番目の水を汲むということになっているから。その夫が汲んだ水をなべに入れて、昆布を一切れ入れて火にかけて、沸騰する少し前に昆布を取り出してそこへかつお節を入れてすぐ火をとめます。そして漉してだしを作ります。そこへしょうゆ、みりん、酒で



ご褒美の時間

「読者のページ」ではテーマも設けています。次号のテーマは「ご褒美の時間」です。何かを達成したときに、ちょっとした息抜きに、気分良く明日に希望をつなげてくれる「ご褒美」。ご褒美があるから頑張れたという人もいるでしょう。そんなご褒美にまつわる話をどしどしお寄せください。

次号テーマ

追伸 聞いたことはないけれど子供たちの家庭はどんなお雑煮か?

味付けします。

そして今では小松菜と言っていますが、私の若かりし頃は正月菜と言っていたように思いますが、その菜っぱを入れて、少し菜っぱがしんなりするまで煮て火をとめます。火鉢に餅網をのせて四角のお餅を焼いて大きめのお椀にお餅を入れて、そこに正月菜の入った汁をかけて、かまぼこを二切れ入れます。そこへふわふわの花がっおを入れます。このまことにシンプルなお雑煮がわが家の昔からのお雑煮です。人数が多かった子供の頃から、一人になった今でも毎年このお雑煮を食べて年の初めを祝います。